日本一の教育県を目指し、「学びの変革」展開中!

世界中から集まった仲間や先生と学ぶ中高一貫教育校

平成31年(2019年)4月開校!

教室ユニット内のラーニングラウンジのイメージ

学びの変革を先導的に実践し、グローバルリーダーを育成する県立の中高一貫教育校が、平成31年度、大崎上島にいよいよ開校します。生徒たちは豊かな自然に抱かれた全寮制の学び舎で、国際色豊かな仲間や教職員、地域の方々とともに学び、成長していきます。そして国際標準の教育プログラムにより、夢の実現につながる力を育みます。

広島県立広島叡智(えいち)学園中学校・高等学校(仮称)
Hiroshima Global Academy Junior/Senior high school

(豊田郡大崎上島町大串)

中学校 各学年 40人

高等学校 各学年 60人

●平成31年4月開校に向けて、平成30年度に、中学1年生の入学者選抜を行います。

図書・メディアセンターのイメージ

〈育成する人材像〉
社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダー

夢をカタチに!

国際協働型プロジェクト学習
国際機関等と連携して実社会の課題解決に挑戦。将来、様々な分野で活躍するために必要な力を身につけます

国際経験豊富な教師陣
海外の国際バカロレア認定校での指導経験を有する教員や、外国籍の教員など、多彩な教員がチームを組んで指導にあたります

国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)※
高校では海外の大学の入学資格(国際バカロレア資格)が取得できる国際標準の教育プログラムを履修します

※導入に際しては、申請から認定までに、関心校、候補校、認定校の段階があり、各段階には明確に区別された申請項目とタイムラインがあります。どのプログラムにおいてもIB認定校を目指すすべての学校はこの各段階を経る必要があり、IBが認定の可否に関する裁量を有しています。

高校生の1/3(各学年20人)は海外からの留学生
世界中から集まったたくさんの留学生とともに学び合い、多様な見方や考え方を養います

高校の授業は原則英語(国語以外)
高校段階では留学生とともに各教科で英語による授業を行います

全寮制での学習・生活
異年齢の仲間や留学生との共同生活を通して、国境を越えた強い絆を形成し、グローバルマインドを育みます

寮内のイメージ

中村 一朗 県教育委員
参加した高校生には、今後も様々な人々と協働して課題の解決に取り組んでいってもらいたいですね。
また県立広島叡智学園中学校・高等学校(仮称)のカリキュラムなどにこの取組の成果が活かされることを期待しています。

もっと知りたい!

学校案内	平成29年 11月公表予定	
学校説明会	平成29年 12月 3日(日) 10:00～	広島国際会議場
	12月 9日(土) 13:00～	三次市立三次ふれあい会館
	12月16日(土) 13:00～	県立ふくやま産業交流館

広島叡智学園 検索

広島創生イノベーションスクール「グローカルスクールin広島」を開催しました!

これまでの活動の様子は、こちらの動画をご覧ください。

県内各地の高校生が、平成27年から取り組んできた活動の集大成として開催した「グローカルスクール in 広島」。海外の高校生27名も来広し、活動の成果を伝えるイベントを実施。7月30日には湯﨑県知事を招いてフォーラムを開催し、「2030年のよりよい未来」に向けた共同宣言を発表しました。

ポスターセッション

モザイクアート

ファッションショー

たくさんの方のご来場ありがとうございました!

スマイルリース

共同宣言

オバマ前米国大統領の妹であるマヤ・ストロ氏からの講評

様々な視点で物事を考えられるようになり、ディスカッションの重要性に気づくことができました

世界各国の問題を自分ごととしてとらえ、解決のために協働すれば、地球全体の未来をよりよくできるはず

平成30年度からいよいよ全県へ 「学びの変革」課題発見・解決学習

全県展開を目指して推進してきた「学びの変革」では、「教師基点」ではなく「学習者基点」の学びに取り組むことで、思考力、判断力、表現力等を高める授業づくりをしています。高校生の学習内容の例を、生徒が「どのような疑問を持ち課題を発見するに至ったか」に焦点をあてて紹介します。

高校2年生 地理B(自然環境)

自然環境の人間生活へのかかわりを考えるために、様々な風の特徴について学習します。

曲がった木の写真(イギリス)を示して発問します

「次の写真を見て、疑問に思うことは何ですか。」

© Bernhard M. Schmid/a.collectionRF /amanaimages

© Bill Ward/roberthardingｗ /amanaimages

写真や資料をもとに先生が発問します

風の強さ
どのくらい強い風が吹くとこうなるのか
どれくらいの時間をかけて曲がったのだろう

場所の特徴
日本ではこんな木は見られるのだろうか
どんな場所でこんな木になるのだろうか

写真や資料を見て、試行錯誤しながら生徒は様々な意見を出していきます

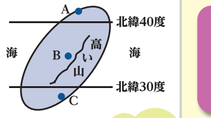
どのような場所で、木がこのような形になるのか。

生徒が課題を設定します

課題の追究

下のような仮想大陸のモデルを使って考えます。

モデルのA～Cのうち、写真のような場所がどこにあたるか予想させ、なぜそのように考えたのか、その理由を話し合います。



さらに学習を深めるために
●なぜ世界のほぼ同じ緯度でこの景観が見られるのか、偏西風の特徴から説明してみよう。
●風は人々の生活にどのような影響があるのか考えよう。

写真を見て疑問を挙げることで、授業で学習する内容の理解が深まった

今まで得た知識と結びつけて考えることができた

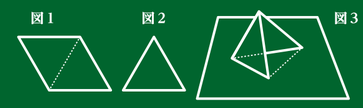
生徒が課題を追究していきます

高校2年生 数学B(ベクトル)

ベクトルを活用して図形の性質を考察するために、具体物を用いて試行錯誤を行い、課題を設定し解決する学習を行います。

生徒にひし形の紙を配り、次の説明と発問を行います

「三角錐をいくつか作ってみて、気づくことは何ですか。」



ひし形(図1)の紙があります。点線で折ると、正三角形(図2)になります。これを少し開いて机に立てて、三角錐(図3)を作ります。

三角錐の体積の最大値はいくらだろうか。また、どのようにして求めればよいだろうか。

課題の追究
三角錐の体積の最大値を求めるために、辺の長さや角の大きさに注目させ、これまでの学習内容(ベクトル等)を活用しながら課題の解決を図ります。

さらに学習を深めるために
●他の方法で、三角錐の体積の最大値を求めてみよう。

三角錐の高さや底面積が変わる
変化するものと、変化しないものがある
様々な形の三角錐ができる
折り方によって開き具合が変わり、様々な形の三角錐ができることが分かった
これまでの学習内容を組み合わせて考えることで、ベクトルや関数を使うことのよさを感じ取ることができた

親子のコミュニケーションを応援!
いきなりどなっていませんか?

試してみませんか?

Point
●一方的に叱るより、お子さんの気持ちをまず受け止めてあげるほうがよく伝わります。
●言いすぎたときは、素直に謝りましょう。
●目線の高さを合わせたり、テレビを消したり、伝わりやすい環境を整えて話しましょう。

子どもの豊かな心を育てる「山・海・島」体験活動

「山・海・島」体験活動 主体的に行動する3泊4日

この活動では、児童が親元を離れ、山・海・島など日常とは異なる環境の中で、様々な体験活動を通して、自立心や主体性などの豊かな心を育んでいます。仲間と協働して困難を乗り越えていく活動や新たな考え方、価値観に触れる体験などを通して、子供たちが大きく成長しています。

1日目 人間関係づくりプログラム
学校では気づかなかったけど、友だちの新たな一面を発見しました。

2日目 スコアオリエンテーリング
どっちに行けばよいか迷った時には、みんなで話し合って進む方向を決めました。

太陽の位置はこっちだよ
コンパスはこっちを指しているよ

3日目 カッター研修
友だちと協力しながら、充実感や達成感を味わいました。

よーし、息が合ってきた!
やったあ。こんな遠くまで来たぞ!!

4日目 4日間の振り返り
全員が同じ意見でなくても、同じところと違うところを整理することで、協力し合うことができました。

そうか。そういう考え方もあるのか

事前学習
子供たち自らが体験活動の目標を立てます。

3泊4日の体験活動
自らの課題に向き合い、協力しながら様々な体験をします。

体験活動後の学級で
さらに学校生活を充実させるための取組を話し合います。

山海島 検索

保護者の声

家族と4日間も離れたことがなかったので、出発前は不安そうでしたが、帰ってくると「あと一週間あっても大丈夫」と笑顔でした。
「みんな次はこうしたらいいんじゃないって、どんどんアイデアが出てくるんよ。話し合って決めたことが達成できると、みんなで『やったあ』ってなるから、とっても楽しかったよ。」と楽しそうに話してくれました。

以前からお手伝いをよくしてくれていましたが、体験活動後は、頼まれなくても、「洗濯物をたたんでおいたよ」「晩御飯を作るのを手伝おうか」と、自分から家事に協力してくれるようになりました。私たちも4日間離れてみて、子供たちの成長ぶりを感じています。

教育相談主任の役割 地域の特別支援教育のセンターとして、相談に応じます

県内の特別支援学校では幼小中高等学校等からの特別支援教育に関する相談に応じるため、専任の教育相談主任を配置しています(15校に20名配置)。このうち、広島中央特別支援学校では、校内に視覚障害教育相談支援センターを設置して、視覚障害教育に関する様々な情報を提供したり、相談に応じたりしています。

県立広島中央特別支援学校
教育相談主任 増田 知美 先生

弱視レンズ指導

センターでの支援例
●視覚障害のある乳幼児子育て相談・療育支援
●点字・歩行・弱視レンズ指導
●視覚障害幼児児童生徒が所属する学校等への相談・支援
●中途失明者の方への相談・支援

近藤 いずみ 県教育委員
県立広島中央特別支援学校を視察しました。教育相談主任は、より質の高い助言や支援ができるよう、日々専門性を高める努力をしています。学内外を問わず、気軽に相談して、視覚障害に関する不安の解消などに役立てていただきたいです。